教育講演会が開催されました

10 月 17 日(土)に、国保旭中央病院の坂本壮先生をお招きし、医学生・研修医を対象とした教育講演会を開催しました。今回は「FIRST MOVE―胸痛から学ぶ、ER の作法―」というテーマでご講演いただきました。









講演では、胸痛を主訴とする患者の診療において、急性冠症候群、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの致死的疾患を見逃さないための考え方について学びました。特に、典型的な症状だけで判断するのではなく、高齢者では胸痛を伴わずに呼吸困難や倦怠感、冷や汗などの症状で発症することもあるため、幅広い視点で鑑別を行うことの重要性を実感しました。また、バイタルサインや身体所見を丁寧に評価し、心電図やトロポニン、D-dimer などの検査結果も単独で判断するのではなく、患者の症状や経過と合わせて総合的に解釈する必要があると学びました。

今回の講演を通して、検査結果だけに頼るのではなく、患者自身をよく観察し、病歴や身体所見から得られる情報を大切にすることが、診断の精度を高めるうえで重要だと感じました。今後は、致死的疾患を常に念頭に置きながら、適切な鑑別診断と検査の選択を意識し、患者の状態を経時的に評価することで、より安全で適切な診療につなげていきたいと思います。

